

令和3年度宮城県文化芸術振興審議会における審議事項の結果について

- 1 **日時** 令和4年2月2日（水）に各委員宛て書面により開催する旨を通知し、2月22日（火）を期限として、議事に係る意見を聴取した。
- 2 **出席委員**
志賀野委員，小塩委員，村上委員，雫石委員，鈴木委員，佐藤委員，青木委員，玉淵委員，花田委員，赤間委員，斎藤委員，大澤委員，梶賀委員，高田委員
- 3 **議事**
第3期宮城県文化芸術振興ビジョンについて
- 4 **概要**
別紙のとおり

令和3年宮城県文化芸術振興審議会意見

No	意見概要
1	<p>・5か年の計画であり、その骨格は網羅的・総合的に策定されていることから、変更する余地はないと思われます。</p> <p>・しかし、ビジョンに記載された社会情勢の中で「新型コロナウイルス感染拡大」については、その感染力の強さから沈静・終息の見通しが立たず先行き不透明な状況が続いており、その長い感染症対策に対応しなければならない文化芸術分野の諸活動は大きな打撃を受けています。コロナ禍の文化芸術活動をどのように保障していくのか、文化芸術振興計画に新たな項目が必要なのかもかもしれません。</p>
2	<p>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が文化芸術活動に大きな障害となっていることが資料2から読み取れました。状況は変化しているものの新型コロナの影響はしばらく継続すると考えられ、そのような状況下で「数」による評価は全く意味をなさないと思われます。</p> <p>・状況に対応してどのような実施の工夫を行ったか、実施できない場合は状況が改善した時にどのような形であれば継続・展開できそうか、などが評価において現在必要な視点ではないかと考えます。</p> <p>・また、拡大するオンラインでの文化芸術活動を支援するとともに、新型コロナの影響で途絶えかけている対面での活動を今後どのように盛り上げていくのかについて、具体的な方策を盛り込んで行く必要があると感じます。</p>
3	<p>・ビジョンの目標を達成するための手法としての持続可能な文化芸術支援システムに関して、公共工事実施の際に総工費の1%を芸術文化事業に充てる「芸術文化のための1%条例の制定」、社会の諸問題を創造的なアート的手法で解決を図る活動団体を支援する「ふるさと納税ソーシャルアート（社会芸術）」、「アーツカウンシル東北」の創設などが考えられます。</p>
4	<p>・文化芸術振興ビジョンに基づく事業は、令和2年度はコロナ禍になり対策も大変であったと思います。動員数などからも明らかで、感染拡大防止のためやむを得ず中止とした事業もあり、この2年間の評価は難しいです。</p> <p>・新たな年度においてもこの2年間の結果を踏まえる必要があり、現在若者への感染拡大があることから実績が0であったものは工夫が必要であると考えます。</p>
5	<p>・これまで長く高校生の運動部活動と文化部活動の支援に携わってきた中で、どちらの立場でも重要だと考えているのは、「人」と「場」の2つです。「人」は選手・プレイヤー・演者のみならず、指導者・スタッフ等の関係者を含めてのもので、「場」は、大会や企画等の表現や競技を行う機会、そしてそのための会場・場所の両方と捉えています。この「人」と「場」が揃ってこそ、より充実した部活動が行えると考えます。その観点から、特に「場」に着目してみると、資料4の「居住する地域にかかわらず、文化芸術作品を創作し発表や鑑賞を行う場が整っていると考える人の割合」の数値に驚きを感じます。「非常に整っていると思う」3.1%、「やや整っていると思う」29.2%で合計32.3%と回答した県民の3割しか肯定的に捉えていないことが分かります。それには様々な要因と背景があると推察しますが、県として県内市町村に対し「場所」になりうる文化施設の整備を働きかけ、かつ支援していくことを希望します。</p> <p>・また、全国では東京一極集中と言われますが、本県では仙台市一極集中という状況があり、文化芸術に関しても同様です。さらに現在、県民会館の移転計画、県美術館の改修計画に加え、仙台市による音楽ホールの建設計画など、仙台市内の文化施設が大きく変わろうとしています。仙台市内においては、県と仙台市の文化施策に関する連携と調整が実際に生活する仙台市民（＝県民の約半数）にとって、直面する重要課題だと思います。</p> <p>・策定された第3期ビジョンにおいても、どの程度仙台市の文化施策が組み込まれているのかよく分からないと感じています。文化事業全体の県と仙台市との関係、更には県庁内の知事部局と教育庁との関係、それぞれを整理すべきではないかと考えます。</p>

令和3年宮城県文化芸術振興審議会意見

No	意見概要
6	<p>・文化芸術に関するアウトカム指標としての目標数値の設定は、かなり難しい課題と考えます。これは、文化は「客観性を確保することが難しく」また「定量化することが難しい」ことから、そもそも数字というものをさして優劣を付けることが難しい分野であり、さらに決められたものさしで測ることに固執すると創造性が欠けてくるといった課題も生じることによります。</p> <p>・望ましい社会像から「アウトカム指標」を先に掲げ、それに関与度が高い事業群を構成していく手法も考えられますが、目標達成に向けた必要となる関連事業の数が多くなり、配分すべき資源の限界から実施すべき事業を選定する際に困難を来すとともに、掲げた指標に振り回される恐れもあります。</p> <p>・アウトカム指標は、大局的観点から、文化芸術を取り巻く社会環境等の経過を観察するための数値といった程度の認識でも良いのではと考えます。個々の事業や事業群との関連性は薄れますが、資料にある「県民意識調査」や「社会生活基本調査」の結果を参考に、幅広い観点から文化芸術に関する社会の動きを経過観察するための指標として「アウトカム指標」を設定してはどうかと考えます。</p>
7	<p>・文化芸術活動の担い手の育成について、芸術家を育てていくには、芸術活動の場の提供など、どのように地域社会に結んだ活動としながら成長を促していけるか、それらをセットにして考えなければならないと思っています。そうした場の提供や地域との繋がりを作るには、例えば劇場スタッフなど、文化芸術等の振興する側の担い手も同時に育成する必要があると感じています。現場レベルで新たな芸術家を育てていくための担い手づくりは、文化芸術の振興に欠かせない要素と捉えるべきで、対策が急務であると感じています。ついては、文化振興を司る担い手づくりという観点もどこかに入れて欲しいです。</p> <p>・また、基本目標とする文化芸術・人・社会の質の高い“高”循環の創出という点について、第1章の5の意義で新たな付加価値を生み出すと言及していますが、文化芸術が新たな時代に向けて、より直接的・具体的な表現を積極的に盛り込んでもいいのではないかと感じました。</p> <p>・資料4について「不安を抱える方々の心のケアのために大切」だと肯定的回答が65%強だったのに対し、「文化芸術が身近なところで活用され地域活性化に役立っている」との回答には肯定的意見が27.5%、一方あまり役立っていないと感じる方が22%と拮抗しています。つまり文化芸術を振興することで、地域経済が発展する可能性があることについてまだまだ実感されていないと読み取れる気がしました。文化芸術がより身近な生活により影響があるといった意識がもっと醸成されていくことが、結果としてアウトカムに繋がっていくと思いますし、こうした変化について中長期的に調査し、こうしたことも含めてアウトカム指標の創出に繋がればよいと思います。</p>
8	<p>・事業の評価項目の一つに「入場者人数」がありますが、現在のようなコロナ禍では、事業数が減少した上、実施出来たものでも内容の変更を余儀なくされたり、入場者数の制限等を行っている事業がほとんどではないでしょうか。とすると、単純な入場者人数の比較では実態にそぐわない評価となってしまう恐れがあります。終息期の見えないコロナ禍の現状を踏まえて、今後とも文化芸術振興事業を継続して更に推し進めていくためには、より具体的で細やかな指標と結果の検証、実績の評価が必要ではないかと思えます。</p> <p>・数値目標としては、例えば、対象とする人数と地域、関わった人（入場者ではなく）の数や関わりの度合い、対象全体の人数に対しての入場者数の割合など、より細やかな設定が考えられます。また、事業内容に応じて、対象は不特定多数とせず、まずはピンポイントで特定少数を狙うことも必要でしょう。その結果を評価し、実績を積み重ねていながら、特定多数、更に不特定多数へと繋げていく取組になればよいと思います。その評価基準や中長期計画があつての事業だと思えます。</p> <p>・実績に対しては、なぜそういう結果になったかの検証が不可欠だと考えます。また、準備はしたものの、コロナ禍や様々な事由で実施出来なかった事業もあつたかと思えます。これらをどのように評価するかについても協議を要するものと思えます。</p>
9	<p>・評価を定める際に、活動指標と成果指標の内容をそれぞれ定義することが重要と思われれます。個人的には、活動指標は、文化施設への来館者数や文化系のサイトへのアクセス数などの数値で測れると思いますが、成果指標は、数値だけで測ることが難しいものだと感じます。活動指標の数値からどのような成果を導こうとしているか、それについてきちんと検討することが必要であると思えます。</p> <p>・また、指標を導く際には、世代によってはインターネットやSNSの方が意見を届けやすいことから、アンケートの方法や対象についても検討が必要だと考えます。</p>

令和3年宮城県文化芸術振興審議会意見

No	意見概要
10	<p>・評価方法について、文化芸術が感動をもたらし、人の心を癒す力があると考える県民の割合を知る必要があると思います。様々な企画が年間を通して行われる中で、どの事業にも共通な指標を出すのは如何でしょうか。例えば、①宮城県文化振興ビジョンを知っている人の割合（県民の意識付けにも繋がる）、②東日本大震災後に芸術鑑賞に足を運んだ人の割合（その感想から見える心情を捉えられないか）、③参加満足度（各事業への参加者が宮城県のビジョンの遂行に繋がっていることを意識する）など。</p> <p>・また、各年代層にとっての文化芸術について、若者文化の抽出の仕方（クラシカルな芸術のみならずヒップホップ等のパフォーマンスやワークショップの開催率や参加率）、学校での芸術鑑賞やワークショップに留まらず地域と一緒に取り組む事業の割合、インクルーシブに参加できる事業実施の割合（社会との協働割合）、後継者の育成が困難な伝統文化や芸術に対する社会からの応援（ファンドや寄付金）の割合など。</p>
11	<p>・県民（受益者）側の評価、期待、行動などが必要ではないでしょうか。</p> <p>・それを前提に、文化芸術の数値化されない質的（高い、深い）な側面の評価をどうするのか、多くの観客を動員するジャズフェスや青葉まつり、光のページェントなどの文化芸術を多義的に位置づけるために経済効果に言及することも大切です。</p> <p>・ページェントが仙台から全国、県内各地への波及効果、ジャズフェスも同様に全国のジャズフェスのモデルとなっています。そうしたイベントの動的な側面の評価も必要かもしれません。</p>
12	<p>・災害に対し、トレランス（耐性）のある文化芸術の宮城式創出</p> <p>大規模災害や疫病などによる社会的経済的ダメージを受けても、宮城県は芸術分野でも新しい道を示せるようなリーダーシップを取って欲しいです。例えば、予算や企画の面などで隣接する市町村と「連携」出来るような仕組みもあると良いのではないのでしょうか。自発的な相互扶助の環境づくりを刺激するような策を講じることが、みやぎの芸術文化レベルの向上へ寄与していくものと考えます。</p> <p>・伝統文化や伝統芸能における若者や子どもたちへの興味関心の創出</p> <p>SNSなどを活用し、若者が参加しやすい環境を整え、伝統芸能保持者と協働で動画制作をするなどの「共有時間」を創出することはどうでしょうか。また、そうした時間や成果物をインターネットを通じて、多言語化して発信することで、地元の誇りや継承のモチベーションへと繋がられると考えます。</p>
13	<p>・一般的な意識の検証はもちろんのこと、アウトカムにおいては質的調査や直接的なステークホルダーによる評価（参加型）を捉えながら検証して欲しい。</p>